道理のない高校つぶし(案)は撤回を

大正白稜高校・福泉高校 の存続を求める署名

大阪府教育委員会（府教委）は、８月２６日の教育委員会会議で「府立学校条例、再編整備計画に基づく令和６年度実施対象校（案）」を示し、「様々な意見を踏まえ１１月の教育委員会会議で最終決定する」としました。その内容は、「入学を志願する者が定員に満たない状況が続いている」などを理由に、大正白稜高校、福泉高校の二つの府立高校を、２０２６年度から募集停止＝廃校にするというものです。これは、次の点からきわめて不当です。

第一に、そもそも、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」には「ゆとり」があって当たり前であり、「定員に満たない」ことを理由に廃校にするのは道理がありません。府教委は、毎年、「就学セーフティネット」として、公立・私立の募集定員の合計が進学予定者数を上回ることを確認しており、「定員に満たない」学校が出るのは制度上の必然です。

第二に、府教委は「１学級４０人、１学年７クラス」を前提に、「少子化なので統廃合が必要」としていますが、不登校生が増加するなど一人一人により丁寧な教育が求められている今、少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実施や学校規模の縮小など、教育条件の改善こそ行うべきです。

第三に、大正白稜高校は２０１８年に二つの府立高校の統廃合でできた学校であり、わずか６年での廃校方針は不当です。近隣の泉尾工業高校もすでに廃校方針が決定されていることから、大正区では、３つあった府立高校が１０年間にすべて廃校になり、区内に高校がなくなることになります。これは、地域の教育環境を大きく低下させ、子どもたちの「学ぶ権利」を奪うものです。

以上のことから下記について強く要請します。

記

1. **大阪府立大正白稜高校・大阪府立福泉高校の募集停止案を撤回すること。**

2. **「3年連続して定員に満たない高校は再編整備の対象」としている大阪府立学校条例を抜本的に見直し、「定員」を理由にした高校つぶしは行わないこと。**

3. **少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実現、学校規模の縮小など、すべての府立高校の教育条件を改善すること。**

大阪府教育委員会 教育長 水野達朗 様

年　　月　　日

氏名	住所

【大阪の高校を守る会】〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-707／☎06-6768-2106

大正白稜高校 福泉高校 の 募集停止案は撤回してください

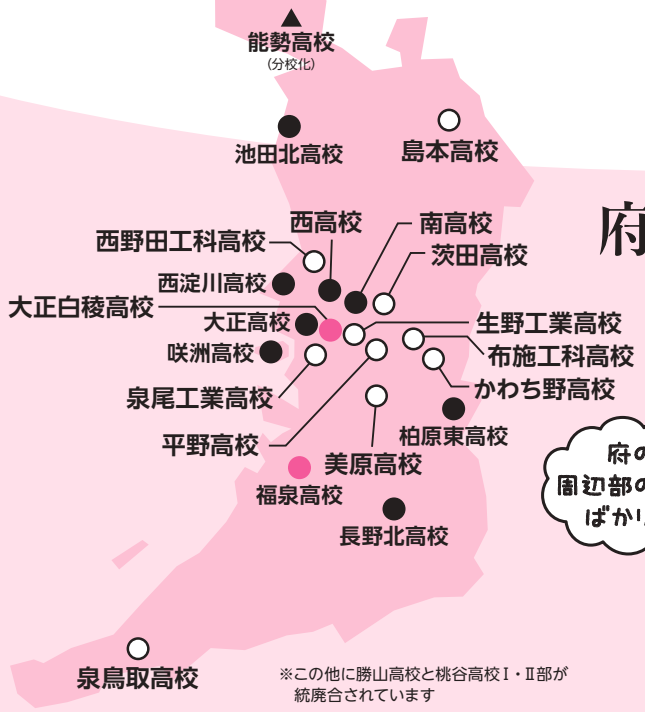
府立高校の「定員」には ゆとり があって当然です

大阪では、「3年連続定員に満たなければ再編整備」とする府立学校条例を背景に、府立高校の廃校が続いています。今年も大正白稜高校（大阪市）、福泉高校（堺市）を2026年度から募集停止する案が発表されました。

しかし、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」にゆとりがあるのは当然です。大阪府は「就学セーフティネット」として、毎年の募集定員が「進学予定者数」を上回るよう調整しています。「定員に満たない」学校が出るのは制度上の必然で、それを理由に学校をつぶすのは道理がありません。

条例前の廃校も含めると府立高校は約40校もなくなり、府内市区町村の50％が「公立高校がゼロまたは1しかない」状況になります。柏原市、阪南市を含む15市区町村は公立高校ゼロです。他府県にはない理不尽な条例の抜本的見直しが必要です。

「定員割れ」で廃校！？
道理のない 高校つぶしはストップを！



※この他に勝山高校と桃谷高校Ⅰ・Ⅱ部が統廃合されています

府立高校はすでに約40校も廃校に
府内市区町村の50％が「公立高校0か1」！？

【条例制定後の廃校】（地図参照）
- ● すでに廃校になった学校
- ○ 廃校方針が決定された学校
- ● 今回、募集停止案が発表された学校

【条例制定前の廃校（全日制）】
門真南・玉川・守口・八尾南・高槻南・上神谷・白菊・枚方西・加納・南寝屋川・横山・城山・少路・鳥飼・四條畷北・清友・西浦・砂川

大阪の高校を守る会
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-707 ☎ 06-6768-2106

2024年9月発行

署名にご協力ください

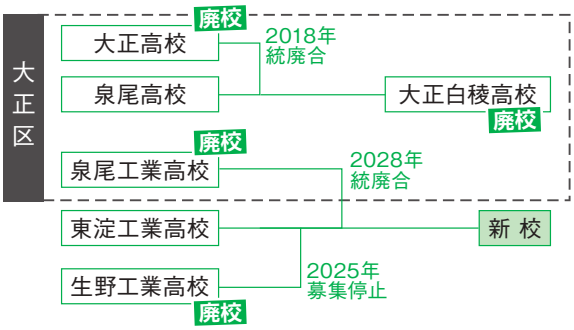
署名用紙のダウンロード

オンライン署名

「地域の学校」をまもれ！
少子化をチャンスに30人学級の実現を！

えっ!!大正区から府立高校がなくなる！？

今回廃校の対象となった大正白稜高校は実は6年前に2つの府立高校の統廃合でできた学校。近くの泉尾工業高校もすでに3校統廃合（2028年予定）による廃校が決まっています。この結果大正区では10年間に3校が廃校になり、府立高校がゼロになってしまいます。“自由競争”と“市場原理”による学校つぶしで地域の教育環境が破壊されています。



そもそも学校の「定員」ってなに？

学校の定員とは、教育条件維持のためそれ以上は受け入れられない「上限」であり、満たさなければならない「下限」ではありません。しかも、学びたいと願う子どもたち全員に学びの場を保障するため、あらかじめ大きく設定されています。今年度入試では、公立私立あわせて4792人分ゆとりがある定員が設定されました。さらに府立高校では、前年度より中卒生が331人減る中、逆に定員を400人増やして募集が行われました。教育委員会が政策的につくり出した「定員割れ」をまるで学校の責任のように問題視し、廃校にするなど本末転倒もはなはだしいことです。財政効率最優先で統廃合をすすめるのではなく、地域に必要な学校をきちんと維持することこそ行政の役割ではないでしょうか。

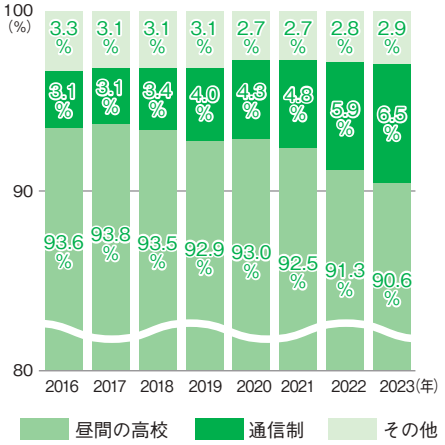
少子化なのになぜこんなに不合格者が！？

少子化にもかかわらず、府立高校では毎年「定員割れ」をはるかに上回る数の中学生が入試で不合格になっています。学区撤廃、公私比率撤廃、進学指導特色校設置など、競争をあおる施策の結果です。高校入試は絶対失敗できない入試。通学区の復活などで競争を緩和し「希望者全入」こそめざすべきです。

不登校増・通信制進学率増…
子どもたちの“居場所”となる学校へ、教育条件改善を！

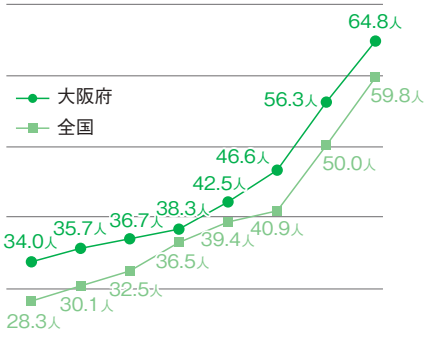
小中学校で不登校が増加、全日制高校の進学率が低下し通信制進学率が上昇しています。学校が子どもたちにとって「息苦しい」場所になっているからではないでしょうか。教職員の増員、30人学級や20人学級の実現で、一人ひとりに丁寧に接することができる教育が強く求められています。それなのに「1クラス40人・1学年7クラス」を不動の前提にして高校つぶしをすすめる再編整備計画は見直しが必要です。

●府内公立中学校からの進学率



（府学教審答申をもとに作成）

●中学校における不登校生徒数の千人率（府内公立中学校・全国）



児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）を元に、大阪府教育庁作成